

第 65 回 日本PTA全国研究大会仙台大会 参加報告



上記大会が、8月25日（金）～26日（土）、仙台市で開催されました。

「つながろうPTA！子どもたちの輝く未来のために ～杜の都発！みちのくの今を伝えたい 感謝の思いと確かな歩みとともに～」を大会スローガンに掲げ、次の4点をメインテーマとして分科会等において議論を深めました。

①家庭・学校・地域とともに歩むPTA活動 ②子どもたちの健康で豊かな心を育むPTA活動 ③災害への備えや被災地支援を考えるPTA活動 ④自他を愛する心を育てるPTA活動

1日目は、7会場での分科会において、基調講演やパネルディスカッション等が行われ、2日目は全体会が行われました。以下、北海道PTA連合会からの参加者の感想を掲載します。

第2分科会（家庭教育）

「子どもの個性を伸ばす家庭環境を求めて」を研究課題に、国立大学法人東北大学教授の瀧靖之氏による「健やかな脳発達のために」と題した基調講演がありました。「知的好奇心を高める方法」「脳の発達には睡眠・朝食・運動が大事」「小中学生時は特に対面交流（Face to Face）が大事」「子どもたちが幸せだと感じるためには保護者の努力が必要」など多くの研究と経験から、とても興味深い話を話されていました。引き続き「不登校やいじめ」に関する実践報告があり、パネルディスカッションでは「コミュニケーションの大切さ」「親も子どもも共に成長することが必要」など、再認識させられることが多く話されていました。

第4分科会（広報活動）

今回、日本PTA全国研究大会に初めて参加させて頂きました。分科会のスタートから、全体会・閉会に至るまで全てに圧倒されました。

私の参加した分科会は、会場が他の会場とは離れた場所にあり、駅から会場までわかりやすくなっているのか不安でしたが、駅を出たところから全ての交差点で仙台大会ののぼりを持った関係者の方が案内してくれました。他の会場も全てそうだったのだろうと考えると、仙台のPTAの方々はもちろん、東北のPTAの皆さんの熱意を感じる事が出来ました。

分科会では酒井美紀さんの基調講演を聴き、女優として活躍されながら夢であった福祉の活動をし、PTA活動にも参加されているとのことでした。「“何もかも”はできなくとも“何か”はきっとできる」はじめの一步を踏み出すことが大切だと改めて思いました。

実践発表及びパネルディスカッションでは、広報紙について意見交換が行われ、記事の内容・全体の構成など「読む人の視点」になることの重要性、その中で「前例を打破すること」により少しでも多くの方に関心を持ってもらえる広報紙になるのだと勉強させられました。広報紙はPTA活動の内容を広めるためにも重要なツールとなっているのでとても参考になりました。

杜の都は美しく、食べ物もとても美味しかったです。震災後初の東北での全国大会、まだまだ元通りではないかもしれませんが、着実に復旧に向けて進んでいる姿、東北のPTAの皆さんの“力”を感じられた素晴らしい大会でした。

第6分科会(人権教育)

第6分科会は「お互いを認め、尊重し合える心の教育を求めて」を主題に基調講演・実践発表・パネルディスカッションが行われ、現代の子供達を取り巻くSNSなどの問題点のお話があり、人が直接対話した場合、相手の表情や仕草、言葉の抑揚などの情報が得られ理解出来るのですが、SNS上では文字の情報しかありません。対話した場合の伝わる内容が100%とするならば、文字のみの情報では約7%しか伝える事が出来ないそうです。そこから生まれる勘違いや摩擦がネットいじめにつながるのではないかと思います。

何より対話・会話が人を育て自らも成長できる最大のツールとなる事、自分の気持ちを伝え、相手を思いやりお互いを尊重できる真のコミュニケーションを形成する事が最も重要である事を学びました。今後のPTA活動はもとより保護者として実践していきたいと思います。

特1分科会(日本PTA担当「いじめ」何が起きているかを知る)

上記課題のもと、基調講演とパネルディスカッションが行われました。

- ・いじめという行為は相手の「人間性と尊厳を踏みにじる」行為であり、いじめを受けた子どもは、「屈辱感」や「みじめさ」にさいなまれ、誰にも伝えられず一人で悩みを深めていきます。
- ・大人はただ子ども向かっていじめ防止を呼びかけるだけでなく、「子どもの手本となるよう、襟を正して生活していくこと」が大事です。
- ・「減点社会」から「加点社会」への転換。水が半分入ったコップを見た時、「上から半分減っている。一杯にしよう。」(減点社会)と考えるのではなく、「半分たまっている。どれだけ入ったか。」(加点社会)を考えるようにし、今あるその人の存在を肯定的に捉えることにより、子どもの体力はついていきます。

鏡に映し出された大人社会の姿が、子供社会そのものであり、大人が責任の持てる生き方をすることが、子供社会からいじめをなくすことに大きく係わるということを再認識させられました。

全 体 会

26日の全体会は、はじめにアトラクションがあり、今年が仙台藩の藩祖伊達政宗公の生誕450年に当たる年ということで、そのことに関連した出し物が披露されました。

記念講演はウエイトリフティングでオリンピックメダリストである三宅宏実氏と三宅義行氏の親子にメインキャスターの方が「オリンピックへの挑戦～家族の絆でつかんだ親子メダル～」というテーマのもと色々と質問し、お二人にお話をしてもらった形で行われました。

宏実さんがウエイトリフティングを始めた時に「途中で投げ出さないこと、どうせやるならオリンピックで金メダルを取ろう」ということを父である義行氏と約束し、継続は力なりということを感じ、現在まで続けてきて、その結果としてオリンピック2大会連続でのメダルにつながったということがお話されました。

また、義行氏からは、オリンピックの監督として、コミュニケーション特に挨拶を大事にして、選手との関係づくりに努め育成に当たっているということなどがお話されました。

親として子どもの成長に対する思い、決めたことを実行に移し継続することの大切さ、そして着実に前進につなげていく力強さが伝わってくる講演で、聞き終えた後はとても清々しい気持ちになりました。

